

【編集後記】「平成から令和へ」

平成の時代を振り返ると大きな災害の連続で、3年雲仙岳噴火、5年北海道南西沖地震、7年阪神・淡路大震災、16年新潟県中越地震、23年東日本大震災、26年御嶽山噴火、28年熊本地震、30年西日本豪雨、他にも大きな被害の出た地震、火山噴火、風水害、豪雪なども数多くあった。その一方で特に阪神・淡路大震災以降、政府や地方自治体の危機管理体制は段階的に整備されてきており、緊急消防援助隊や警察の広域緊急援助隊、自衛隊の災害派遣、DMAT、TEC-FORCEなど、広域的な応援体制も年々充実されてきた。また、25年には「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が制定され、地域の様々な主体の連携による防災体制の充実強化が謳われ、昨年の西日本豪雨では改めて自助の重要性が認識された。

新しい令和の時代、自助、共助、公助の歯車が今以上にうまくかみ合って、重層的に補完し合い、それぞれの地域の、そして我が国全体の安全安心体制がより強固なものになることを期待したい。

地域防災に関する総合情報誌 **地域防災** 2019年4月号（通巻25号）

■発行日 平成31年4月15日

■発行所 一般財団法人日本防火・防災協会

■編集発行人 西藤 公司

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16（日本消防会館内）

TEL 03 (3591) 7123 FAX 03 (3591) 7130

URL <http://www.n-bouka.or.jp>

■編集協力 近代消防社